# 債券・為替
# ウィークリーレポート

カナダ

ブラジル

メキシコ

オーストラリア

ニュージーランド

ノルウェー

南アフリカ

インドネシア

インド

Asset Management One | アセットマネジメントOne

商 号 等 ：アセットマネジメントOne株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第324号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

# 市場概要・見通し（カナダ、ブラジル、メキシコ）

情報提供資料
2019年10月25日基準

| 国（地域） | 格付（※1） | 債券（※2）<br>10/25<br>（10/18との比較）<br>今後の見通し（※4） | 為替（対円）<br>10/25<br>（10/18との比較）<br>今後の見通し（※5） | 経済成長率<br>前年比（※3）<br>景気の方向性（※6） | 政策金利<br>先週末<br>方向性（※7） | 先週の動向 | 今週の見通し |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| カナダ | AAA | 1.54%<br>（▲0.00） | 83.23円<br>（+0.76%） | +1.6%<br>2019年2Q | 1.75% | 発表された小売売上高が市場予想を下回った一方、企業景況感調査は前月比で改善する内容。総選挙では与党が第1党を確保する結果。原油価格が上昇したこともあり、カナダドルは対円で上昇。国債利回りは横ばい。 | GDP（国内総生産）や製造業PMI（購買担当者景気指数）などが発表予定であるほか、金融政策決定会合が開催予定。債券・為替市場は、米国を含め国内外の金融政策と高官発言などに大きく影響を受ける展開を予想。 |
| | Aaa | ⇒<br>金利横ばい | ⇒ | →<br>景気安定 | →<br>据え置き局面 | | |
| ブラジル | BB- | 5.38%<br>（▲0.01） | 27.12円<br>（+2.91%） | +1.0%<br>2019年2Q | 5.50% | 発表された消費者信頼感が前月比でやや悪化した一方、経常収支が市場予想を上回る結果。年金改革法案の審議が順調に進み、財政削減への期待感が高まったことなどもあり、レアルは対円で上昇。国債利回りは小幅低下。 | 財政収支や鉱工業生産、製造業PMIなどが発表予定。また金融政策決定会合が予定されており、市場では0.5%の利下げを予想。債券・為替市場は、国内外の金融政策と高官発言などに大きく影響を受ける展開を予想。 |
| | Ba2 | ⇒<br>金利横ばい | ⇒ | →<br>景気安定 | ↘<br>利下げ局面 | | |
| メキシコ | A- | 6.68%<br>（▲0.03） | 5.70円<br>（+0.42%） | -0.8%<br>2019年2Q | 7.75% | 発表された失業率は概ね市場予想並みとなった一方、小売売上高は市場予想を上回り良好な結果。米中の通商協議が改善に向かうとの期待感が高まる中、メキシコペソは対円で上昇。国債利回りは低下。 | 貿易収支やGDPなどが発表予定。これらの経済指標の内容や、米中通商協議、日米の金融政策を巡る動きなどに注目が集まる中、債券・為替市場ともに現状水準での一進一退の展開を予想。 |
| | A3 | ↘<br>金利低下 | ⇒ | →<br>景気安定 | ↘<br>利下げ局面 | | |

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利 、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

# 市場概要・見通し（オーストラリア、ニュージーランド、ノルウェー）

| 国（地域） | 格付（※1） | 債券（※2）<br>10/25<br>（10/18との比較）<br>今後の見通し（※4） | 為替（対円）<br>10/25<br>（10/18との比較）<br>今後の見通し（※5） | 経済成長率<br>前年比（※3）<br>景気の方向性（※6） | 政策金利<br>先週末<br>方向性（※7） | 先週の動向 | 今週の見通し |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| オーストラリア | AAA | 1.06%<br>（▲0.04） | 74.14円<br>（▲0.29%） | +1.4%<br>2018年4Q | 0.75% | 発表された製造業PMIは前月比で悪化する内容。米中の通商協議が改善に向かうとの期待感が高まり、中銀の資産買入れなど非伝統的な金融政策実施への思惑が働く中、豪ドルは対円で下落。国債利回りは低下。 | CPI（消費者物価指数）などが発表予定。米中通商協議や、日米など国内外の金融政策を巡る動きなどに注目が集まる中、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。 |
| | Aaa | 金利横ばい | | 景気安定 | 利下げ局面 | | |
| ニュージーランド | AA+ | 1.20%<br>（▲0.04） | 68.99円<br>（▲0.34%） | +2.1%<br>2018年4Q | 1.00% | 発表された貿易収支は市場予想を上回るものの、3カ月連続の赤字となる結果。米中の通商協議が改善に向かうとの期待感が高まる中、国債利回りは低下。ニュージーランドドルは対円で下落。 | 消費者信頼感指数などが発表予定。引き続き、中銀のハト派姿勢が継続し、金利の低下基調が続くものと予想。為替市場については、景況感改善の兆しを探る中、現状水準でのもみ合いを予想。 |
| | Aaa | 金利横ばい | | 景気安定 | 利下げ局面 | | |
| ノルウェー | AAA | 1.38%<br>（+0.09） | 11.82円<br>（▲0.16%） | -0.7%<br>2019年2Q | 1.50% | 発表された失業率は市場予想並みであったほか、鉱工業信頼感指数は前四半期比で悪化する内容。金融政策決定会合で市場予想通り金利据え置きが決定される中、国債利回りは上昇。ノルウェークローネは対円で下落。 | 小売売上高や製造業PMIなどが発表予定。引き続きインフレリスクへの警戒感から中銀のタカ派姿勢が続くと見られ、債券・為替市場はともに現状水準での一進一退の展開を予想。 |
| | Aaa | 金利横ばい | | 景気拡大 | 据え置き局面 | | |

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート 、ノルウェー：デポジットレートを表示。



※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

# 市場概要・見通し（南アフリカ、インドネシア、インド）

| 国（地域） | 格付（※1） | 債券（※2）<br>10/25<br>（10/18との比較）<br>今後の見通し（※4） | 為替（対円）<br>10/25<br>（10/18との比較）<br>今後の見通し（※5） | 経済成長率<br>前年比（※3）<br>景気の方向性（※6） | 政策金利<br>先週末<br>方向性（※7） | 先週の動向 | 今週の見通し |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 南アフリカ | BB+ | 7.25%<br>（▲0.06） | 7.43円<br>（+1.05%） | +0.9%<br>2019年2Q | 6.50% | 発表されたCPIは市場予想を下回る内容。国営電力公社エスコムへの過度な懸念が後退したほか、格付け会社の格下げが回避されるとの思惑が広がり、国債利回りは低下。ランドは対円で上昇。 | 失業率や電力消費、製造業PMIなどの発表を予定。また財務相の中間予算演説が予定。国内外の金融政策の動向や、米中の通商協議の動向などに注目が集まる中、債券・為替市場は一進一退の展開を予想。 |
| | Baa3 | ⇨<br>金利横ばい | ⇨ | →<br>景気停滞 | ↘<br>利下げ局面 | | |
| インドネシア | BBB- | 6.53%<br>（▲0.10） | 0.77円<br>（+0.98%） | +5.1%<br>2018年4Q | 5.00% | 特に注目すべき経済指標の発表はなし。金融政策決定会合では市場予想通り0.25%の利下げを実施。財務相の留任が発表され、改革への期待が続く中、国債利回りは低下。インドネシアルピアは対円で上昇。 | 製造業PMIやCPI、消費者信頼感指数などが発表予定。国内外の金融政策の動向や、米中の通商協議の動向などに注目が集まる中、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。 |
| | Baa2 | ⇨<br>金利横ばい | ⇨ | →<br>景気安定 | ↘<br>利下げ局面 | | |
| インド | BBB- | 6.27%<br>（▲0.02） | 1.53円<br>（+0.33%） | +5.0%<br>2019年2Q | 5.15% | 特に注目すべき経済指標の発表はなし。格付け会社が実質GDP成長率見通しを引き下げたものの、政策対応への期待感もあり、国債利回りは小幅低下。インドルピーは対円で上昇。 | 製造業PMIなどが発表予定。金融緩和の累積的な効果や法人税減税の効果などへの期待感があり、日米の金融政策を巡る動きなどに注目が集まる中、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。 |
| | Baa2 | ⇨<br>金利横ばい | ⇨ | ↗<br>景気回復 | ↘<br>利下げ局面 | | |

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
※2 国債利回りを表示（南アフリカ：3年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。
※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

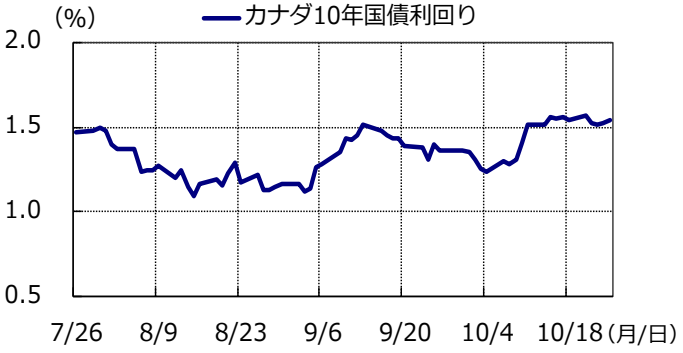


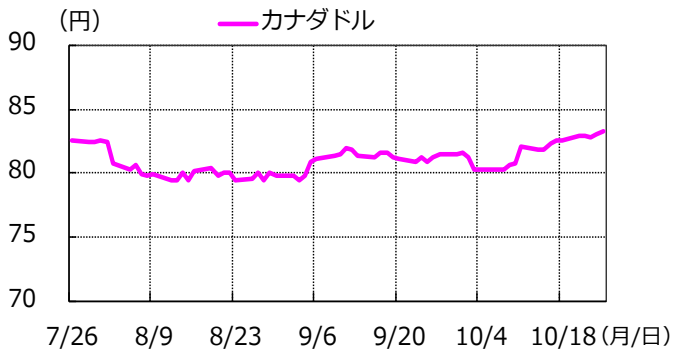
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

# 債券・為替（対円）の市場動向（カナダ、ブラジル、メキシコ）

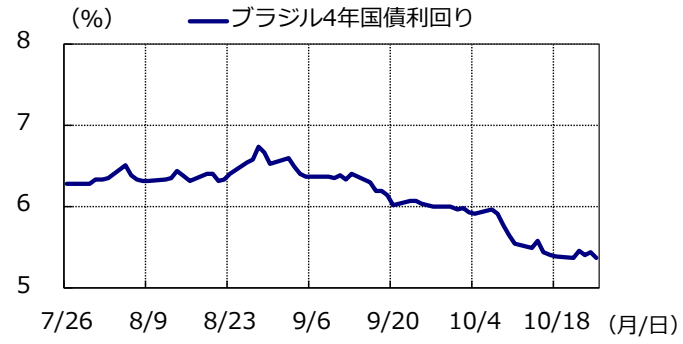
**期間：2019/7/26～2019/10/25**

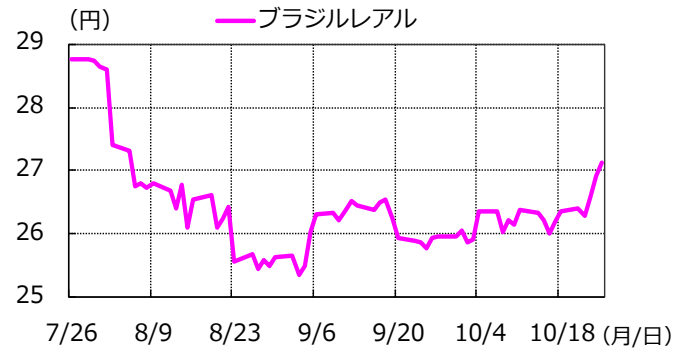
## カナダ



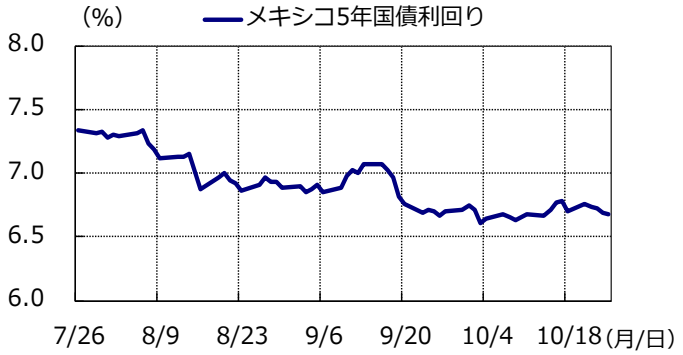



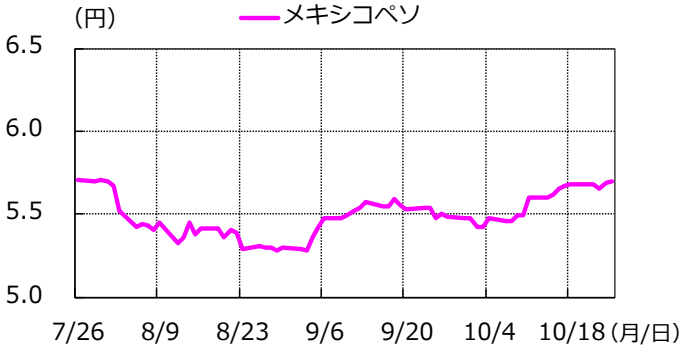

## ブラジル




## メキシコ



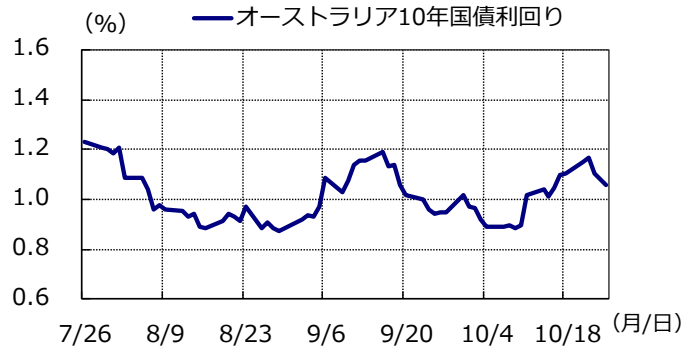

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

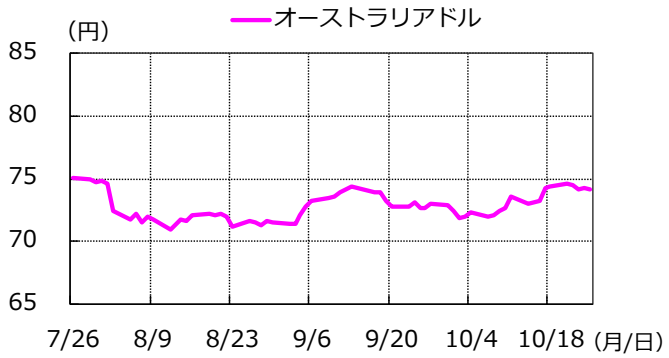
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

# 債券・為替（対円）の市場動向（オーストラリア、ニュージーランド、ノルウェー）

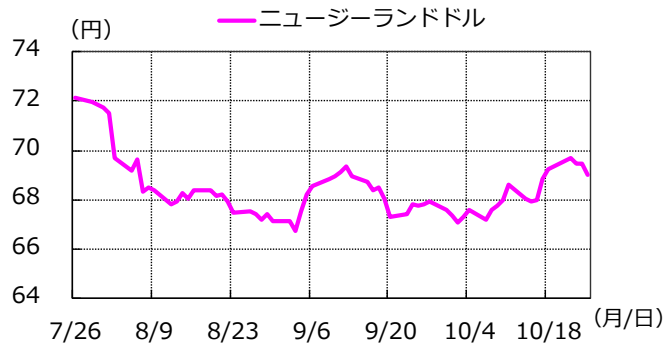
**期間：2019/7/26～2019/10/25**

## オーストラリア

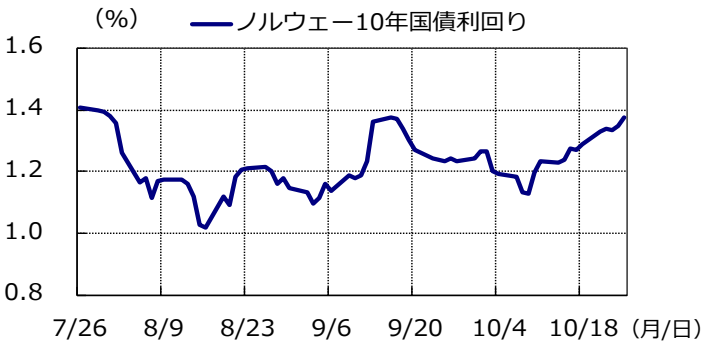


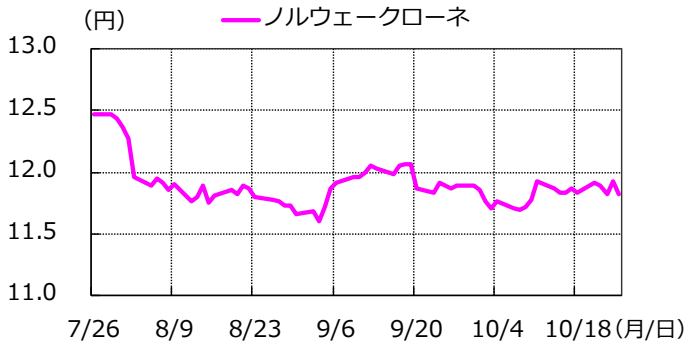




## ニュージーランド




## ノルウェー



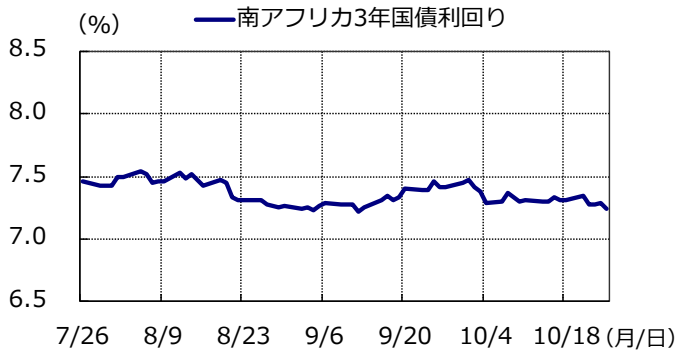

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

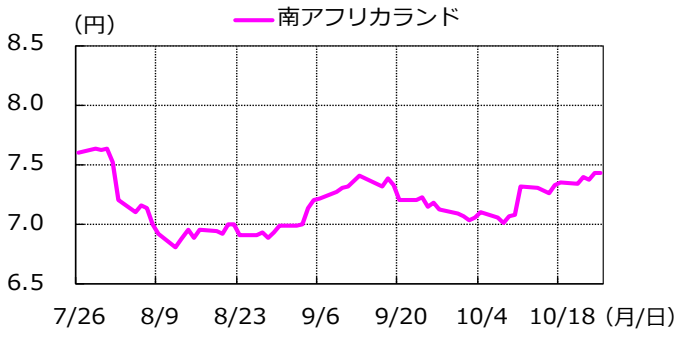
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

# 債券・為替（対円）の市場動向（南アフリカ、インドネシア、インド）

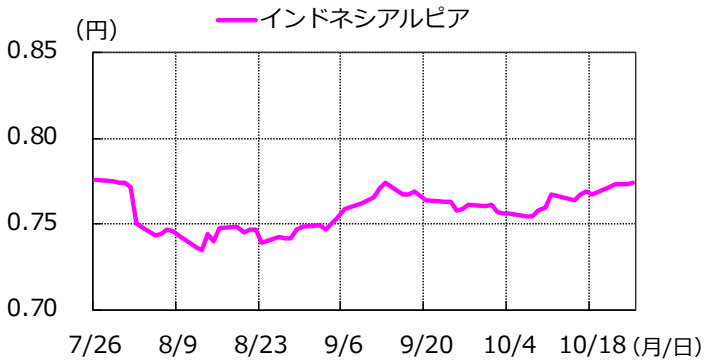
**期間：2019/7/26～2019/10/25**

## 南アフリカ

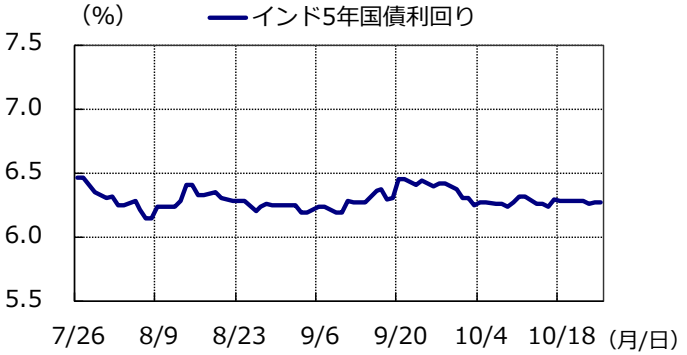


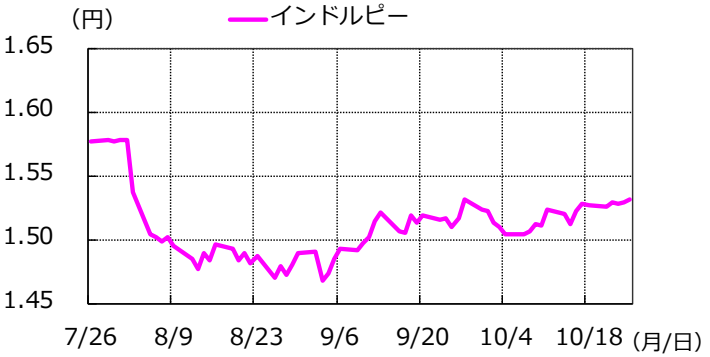




## インドネシア




## インド




※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。　※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

# 投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

［ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。］

■お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合があるため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

●当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

●当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

●投資信託は、

1．預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2．購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3．投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。